

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

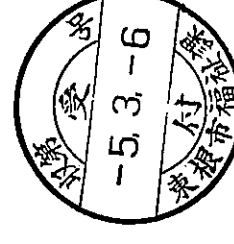
事業所名: ニチイケアセンター神町

作成者: 原田 由美

作成日: 2022年12月26日

運営推進会議における評価実施日: 2023年2月20日

帳票C



(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービス意識をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなけている	B	ニチイ学館の経営理念と職員全員で作成したグループホームの理念を事務所と各ユニットのリビングに掲示している。全職員が理念を理解して業務に取り組んでいる。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	C	新型コロナウイルス感染症の発生や地域行事への参加があった今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の脅威、自身に加入し地域住民の一員として、毎回の清掃活動に参加し交流の機会を持つようになっている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A	今年度は、4月と6月に感染対策を行い、集客型の運営推進会議を開催を行いました。8月以降は感染拡大に伴って文章による情報提供に不足を感じており、運営状況、広報誌、重要質問FAX用紙を配布し質問FAXへの回答をおこなっている。		
4	市町村との連携	市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の事情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	C	運営推進会議には、市役所、包括支援センター職員からもメンバーに入っただき現状報告や今後の取り組みを説明している。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定制度における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	身体拘束防止委員会を設置し毎月開催し、審議結果についてはスタッフに周知徹底を図っている。全スタッフに対して、身体拘束等の適正化のための研修を2回実施しており「身体拘束等の適正化の指針」のマニュアルを熟読しながら拘束のない介護に努めている	B	身体拘束防止委員会を設置し毎月開催し、検討事例の有意義な取組や事例の共有は職員全員でマニュアルの読み合わせを行っている。玄関の施錠は、日中は行っていないが、各ユニットのリビングから廊下への施錠は建物構造上廊下に出るとすぐに施錠がある為、利用者の安全を確保し施錠を行っている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に取り組んでいる	A	高齢者虐待防止マニュアルに基づき研修を行い、職員同士お互いの同行を確認しながら虐待防止に努めている。	A	現在まで、高齢者虐待の検出事例は起きていない。今後も、福祉の権利を確保しローテーションである「虐待をしない」を念頭に、緊急事態に備え、互いに強い姿勢をもち取り組んでいきます。コロナが落ち着いたら包括支援センターより外部講師を招いた研修などを取り入れたい。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	成年後見制度については、利用しているお客様もいる為、研修等で学ぶ機会を設けており日常生活自立支援事業研修も併せて行っている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	契約・解約・改定は、管理者が行っている。不明な点が無いか必ずお聞きし、納得していただき契約を行っている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	C	弊社独自の顧客満足度調査に基づき、業務ミーティング時に職員に結果を報告し今後の運営に役立てている。	B	コロナ禍で、外出行事が全く出来なくなり利用者の要望などを取り入れレクやイベントを行った。家族からの問い合わせや利用者の様子や行事などを聞き取った。今年度より、施設内での利用者の様子や行事など、毎月写真を取り玄関に掲げようとした。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞き機会を設け、反映させている	B	申し送りノートへの記載・業務ミーティングで意見や提案を聞き機会を設け、反映させている。また、日常業務においても個人の意見や耳を傾け、活かしていくように努めている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	B	キャリアアップ制度(自己評価、面接試験、筆記試験)を実施している。管理者と職員の意思疎通を図り、介護技術や意識の向上を図っている。結果として時給がアップするなどの条件整備を行っている。	B	定期的に面接を行い、勤務時間数や家庭の状況、体調面などを面接取り手(フロント)と確認し、互いに向上心を持って働くように就業環境整備を行っている。各自が各自が向上心を持って働くように就業環境整備を行っている。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	業務ミーティングの中で年間計画に沿った項目で研修を実施している。外部研修は、コロナ禍である為zoomでの研修に管理者やケアマネが参加するようにしている。今後は、職員にも研修を受けようとしている。	B	今年度は、職員を把握し法人内外の研修機会を周知し研修を受ける機会を確保し個々のスキルアップに努めている。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	D	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入しているが、今年度は参加する時間の確保が難しかった。来年度は、参加出来るようにしていきたい。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	ご利用前に、自宅入院先、他施設への訪問し面談を行っている。ご本人様の話を傾聴し、不安や要望等を受け止めるように努めている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	C	コロナの感染状況を踏まえ、感染対策を行い長時間での面会の再開も行った。現在は、感染対策の増加からオンライン面会を実施しており馴染みの関係が途切れないように支援している。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター神町

作成者: 原田 由美

作成日: 2022年12月26日

運営推進会議における評価実施日: 2023年2月20日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	希望や意向を率直に伝えられない利用者もいるので、日常生活での発言や行動をもとに把握に努めている。ご家族様の意見もお聞きしながら、本人本位の暮らし方が出来るように支援している。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	A	利用者ごとに、担当職員を配置しモニタリングを実施計画を作成し、関係者から情報を得て計画作成に役立てている。	A	今後も、家族に施設での様子や定期的に話す機会をつくり意向を伺いながら職員全員で計画の内容や課題の見直しを行い本人様により良く暮らすための介護計画書の作成を行う。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	B	日々の状況を個別記録に記入するとともに、状況の変化や気付いたことは、業務管理日報・申し送りシートに記入し全職員で共有し、必要に応じて計画書の見直しを行っている。	B	日々の状況の個別記録が、職員によってバラつきがある為、介護記録の書き方を統一作業を回し、実践や介護計画書の見直しに反映させていく。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに匹敵できない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	C	紹介先の介護支援専門員の方や相談員の方、ご本人、御家族から様々なお話を伺った時点で本当にグループホームがふさわしいのかを判断が必要であれば他のサービスの利用の提案を行っている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを築くことができるよう支援している。	C	新型コロナウイルス感染症などで、外出は出来ない状況ではあるが、施設でのレクリエーションを通して楽しむことができるよう行事を検討し実施している。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	A	協力医の往診(内科)体調に変化が見られた際には、その都度協力医に連絡し指示を仰いでいる。また、協力医以外のかかりつけ医を希望されている利用者様には、ご家族様と連携しながら受診して頂いている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	医療連携室を通して、病棟の看護師から話を伺う機会を作っていたとき情報を得ている。また、かかりつけ医にも、その都度入院中の様子を報告している。	B	入退院時の、かかりつけ医と病院関係者とは情報交換や相談しながら連携をとっている。退院時には病院を訪問し病院関係者より情報提供を受け連携をとっている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	C	入所時に、重度化や終末期に対する施設の方針を説明している。看護師不在の施設の為、服薬以外の医療行為が必要となった場合は適切な施設へ紹介する旨を事前に説明している。	C	看護師不在の施設である為、施設見学の際にお伝えしている。医療行為が必要になった際には、適切な施設へ紹介する旨を説明している。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	C	緊急時のマニュアルを作成している。ユニット内に、利用者の容態急変時の連絡ルートが記載されているファイルを置き、備えている。なくスタッフが迅速な対応に努めている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている。	A	年2回避難訓練を実施。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大も考慮し避難訓練を行った。	A	5月と11月に火災を想定し避難訓練を実施。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大も考慮し避難訓練を行った。5月と11月に火災を想定した避難訓練を行った。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター神町

作成者: 原田 由美

作成日: 2022 年 12 月 26 日

運営推進会議における評価実施日: 2023 年 2 月 20 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	一人ひとりの性格や、生活歴、認知症の症状を理解し、それに合わせた声掛けや対応を行うようにしている。	B	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーへの配慮を損ねない声掛けの工夫を行い、個人情報の取扱いが守られるようなケアを目指している。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしたいペースを大切に、その日ごとのように過ごしたいかが、希望にそって支援している	B	利用者様ご希望を聞きながら支援している。希望をおっしゃらない方には、ご本人のその日の状態を見ながら、こちらから家事やレク活動行事への参加を提案している。参加の可否がある際には無理強いをせず、ご本人様のペースで過ごせるように配慮している		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A	ご利用前には、ご本人様の嗜好をお伺いしながら希望に合わせたメニューを取り入れたり季節感を感じていただくような食材を使った食事を取り入れられている。食後は、利用者と職員が共同で片付けを行っている。	A	利用者の誕生日には、お好きな物を頂きメニューに取り入れお誕生日メニューとして提供している。日々、季節を感じて頂くような食料の下準備や、食後の片付けを行っている。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	毎日の介護記録に食事量や水分摂取量を記入し、食事や水分量が少ない時には、業務管理日誌のその旨記載し、申し送りを行い利用者一人ひとりととって十分な食事量、水分量が補われるように配慮している。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	毎食後、口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方には声掛けにて行っていただき、介助が必要な利用者様には付き添い、必要な所のみ介助し出来るところは自力で行えるように援助している。歯科の診察や治療が必要な利用者様には、訪問歯科の案内を行っている	A	利用者の口腔状態を把握し、本人が出るところは、やがややっていただく出来ないところの介助を行っている。訪問歯科の先生や歯科衛生士から使った歯ブラシを頂きながら利用者の口腔内の清潔保持に努めている。訪問歯科診察は、御家族様より大変喜ばれている。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	排泄ケアを行っている。また、排泄のリズムがつかみづらい指導を行っている。また、排泄のリズムがつかみにくい利用者様については、排泄のサインがないか見守りし、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。	A	排泄ケアを有効活用する事で、排泄パターンを把握し排泄サインを聞き取りやすいように配慮を行っている。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を奨励するように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	個人浴槽に入浴出来る方、ご本人様、御家族様の希望に沿って入浴していただいている。機械的な必要な利用者様に関しては、同じ建物内の小規模多機能型居宅介護事業所の機械浴をご利用している。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B	一人ひとりの状態や生活習慣に合わせて、居室で休息の時間を取り入れている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	スタッフ全員が一人ひとりの服用している薬の目的や副作用について学習しながら理解している。薬のケースには本人確認が出来ないように顔写真を貼って服薬セット、服薬確認にも二重チェックを行い、服薬漏れや誤薬のないような体制を整えている。服薬後の薬の	A	利用者の服薬状況を把握し、服薬後の状態観察を注意深く行っている。服薬後の状態観察を注意深く行っている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	入居前の面談で、ご本人、御家族様から様々な情報を共有し、一人ひとりが役割や楽しみを持って過ごせる様に配慮している。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	D	新型コロナウィルス感染拡大で、外出は自粛しているが、近所への散歩や施設での車むしりや喫煙などを行い気分転換を図ってもらえるように支援した。身体的機能が低下しないように歩行練習や屋外の軽作業やゲーム等を通して生活を楽めさせている。外出できない利用者様の為に、スタッフが帰った四季折々の写真を廊下に飾り見てもらい季節を感じてもらっている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D	お小遣いは、施設の金庫で預かり献費代や生活雑貨などの購入に使っている。お小遣い帳で管理し、御家族様から確認していただいている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	C	御家族様からの電話があった時には、取り次ぎ直接話しをしてもらっている。また、届いた手紙は本人にお渡しし、必要であれば職員が読むのを手伝っている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	ご利用者の皆さんと季節感あふれる作品を作成しリビングや廊下に展示している。また、室内で快適に過ごすために定期的に換気を行い室温、湿度を管理し快適に過ごせるように配慮している。	A	毎月、季節を感じて頂く為にリビング内に掲示する塗り絵や折り紙を利用者と一緒に作成している。また、室内で快適に過ごすこと出来るように定期的に換気を行い室温、湿度を管理し快適に過ごせるように配慮している。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター神町

作成者: 原田 由美

作成日: 2022年12月26日

運営推進会議における評価実施日: 2023年2月20日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	利用者に希望を聞きながら支援しているが、希望をおられない方には本人のその日の状態を見ながら、こちらから家事やレク活動、行事への参加を提案している。参加への拒否がある際には無理強いせず、ご本人様のペースで過ごせるように配慮している。		
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B	入居前に、ご本人や御家族様に面談を行っている。また、紹介先の介護支援専門員の方や病院の相談員の方々から情報を得て把握に努めている。入居前にご本人様、ご家族様との会話を通して把握に努めている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A	協力医の往診(内科)体調に変化が見られた際には、その程度協力医に連絡し指示を仰いでいる。また、協力医以外のかかりつけ医を希望されている利用者様には、ご家族様と連携しながら受診して頂いている。	A	日々の体調観察をしっかりと行い、協力医と家族様とも連携しながら受診していただき安心して過ごせるように支援している。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A	入居前の面談で自宅での生活の様子をお聞きし、なるべくその方のペースに合わせて生活出来るように支援させて頂いている。		
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのあるものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	C	自宅で使用していたベッドや家具などを自室に持ち込んでもらい居心地よく過ごせるように支援している。	B	馴染みの家具を持ち込んだり、好みの物を物置に置いてもらったり、くまやかにかご通してもらえるように支援している。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	D	本人の意向や希望での外出は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、外出は行っていないが近所の公園までの散歩や、施設内の畑の草むしりや収穫などを戸外に出る機会を支援した。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	B	入居前の面談で、ご本人や御家族様から得た情報を共有し、一人ひとりが役割や楽しみを持つて過ごせるように配慮している。		
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	B	利用者の関係性を把握し、席の位置を配慮しながら職員が橋渡し役となり孤立しないように話題を提供するように支援している。	B	利用者同士の間接性や会話が難しい利用者もいるので、席を配慮しながら職員が橋渡し役となって孤立しないように支援している。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	D	コロナ禍で、近隣や地域の人々との関わりや交流は出来ていないが地域のみんなと関わったり交流出来る方法がないかを探ってほしいと思ってる。		
49	総合	本人は、このGHに在ること、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B	コロナ禍で、地域のみんなとの交流はないがGHでの生活では他の利用者や職員と親密な関係性を築き、安心して日常生活を送ることが出来るように支援していきま	B	コロナ禍で、地域のみんなとの交流は全く行われていないが他の利用者や職員と親密な関係性を築き、安心して日常生活を送ることが出来るように支援していきま。今後も、個人の情報により寄り添いながら、利用者や職員が明るい笑顔で日々過ごせる支援していきます。

総評

新型コロナウイルス感染拡大から、3年が経過し未だ感染の終息の見通しがつかない状況です。当施設では、引き続き利用者及び職員の健康管理を行い感染防止対策に努めてまいります。
今年度から、運営推進会議を活用したサービス評価を実施致しました。コロナ禍で、4月6日は集合型の運営推進会議を開催する事が出来ましたが、8月より感染拡大に伴い書面での報告とさせて頂きました。
コロナ禍で、外部行事の参加や交流が出来ない状況でしたが、施設内で出来る事を職員と模索しながら様々なレクやイベントを行ってまいりました。
家族様との面会も制限される中、オンライン面会や玄関先での短時間の面会などの工夫を行いながら支援して参りました。今年度からは、施設での様子を写真に収め玄関に毎月掲示して家族様から見て頂く事も始めました。今後も感染対策を行い利用者が安心して笑顔で日常生活を送る事が出来るように支援してまいります。

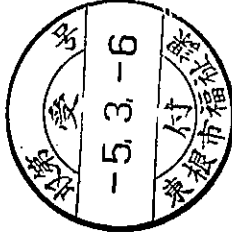
参加者サイン欄

- ・東根市役所福祉課長寿支援係
- ・ 区長 (資料配布のみ)
- ・ 家族代表 やわらぎ (資料配布のみ) ・ ほほえみ
- ・ 民生委員
- ・ グループホームさくらんぼ

氏名の記載は、個人情報となりますので控えさせていただきます。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

構成員より、意見を頂いた中に、「職員を育てる取り組み」で外部の研修を職員が受ける機会が無い事の指摘を受けました。
内部の研修は、毎月行えるものの外部研修は管理者やケアマネの受講になっておりました。来年度は、外部研修募集の周知を受けられる機会を確保し個々のスキルアップに繋げていけるよう改善していきます。
今後も、コロナ禍で施設内で過ごす事が多いと思われまますので利用者が安心して日常生活を送る事が出来るように支援してまいります。



帳票D

事業所名 ニチイケアセンター神町

作成日: 令和 5 年 2 月 22 日

作成者: 原田 由美 (管理者)

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなってしまうよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に要する期間
1	12	職員が外部研修に参加する機会が無い。	外部研修を受ける機会を確保し、個々のスキルアップに繋げる。	6ヶ月
2				ヶ月
3				ヶ月
4				ヶ月
5				ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。